



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成28年11月4日

上場会社名 全国保証株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 7164 URL <http://www.zenkoku.co.jp/>  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 石川 英治  
 問合せ先責任者（役職名） 取締役経営企画部長（氏名） 青木 裕一（TEL）03-3270-2302  
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月8日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 平成29年3月期第2四半期の業績（平成28年4月1日～平成28年9月30日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	14,311	14.0	10,352	4.4	10,873	5.5	7,049	3.1
28年3月期第2四半期	12,558	7.3	9,916	16.1	10,304	14.7	6,839	18.8
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
29年3月期第2四半期	102.52		102.49					
28年3月期第2四半期	99.46		99.44					

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	243,278	77,621	31.9
28年3月期	235,520	74,112	31.4

（参考）自己資本 29年3月期第2四半期 77,530百万円 28年3月期 74,056百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	55.00	55.00
29年3月期	—	0.00			
29年3月期（予想）			—	55.00	55.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	33,780	5.8	24,240	△3.5	25,140	△4.4	17,290	0.5	251.45

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、[添付資料] 3 ページ「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	29年3月期2Q	68,860,980株	28年3月期	68,860,980株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	99,957株	28年3月期	99,890株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	29年3月期2Q	68,761,046株	28年3月期2Q	68,760,435株

(注) 株式給付信託 (J-E-S-O-P) が保有する当社株式 (29年3月期2Q : 99,650株、28年3月期 : 99,650株) を自己株式に含めて記載しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料] 3 ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(会計方針の変更)	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善が続き、個人消費も底堅い動きとなるなど緩やかな回復基調が続いたものの、アジア新興国における経済成長の鈍化など海外経済の減速が懸念されるほか、円高の進行による企業収益の改善に足踏みがみられるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

住宅市場につきましては、日本銀行のマイナス金利政策、政府の住宅取得支援策などを受け、新設住宅着工戸数が前年同期を上回り持ち直しの傾向となりました。住宅ローン市場におきましては、住宅ローン金利低下により借換需要が刺激され、金融機関相互による案件獲得競争は激しさを増しました。

このような事業環境のもと、当社は、「保証事業の拡大」ならびに「統合リスク管理制度の活用」の課題を中心に各種施策に取り組んでまいりました。

保証事業の拡大におきましては、既存提携金融機関による当社保証の利用率向上および未提携金融機関との新規契約締結に取り組んでまいりました。既存提携金融機関による当社保証の利用率向上につきましては、当社保証商品・事務手続きに関する説明会や勉強会の企画・開催、その後のフォローアップなどの訪問活動を継続し、取引拡大に努めました。一方、未提携金融機関との新規契約締結につきましては、銀行業態を中心に外部保証の利用ニーズがある金融機関に対して積極的な営業活動を展開した結果、当第2四半期累計期間において銀行3行、信用金庫2金庫、JA6組合、労働金庫1金庫の合計12機関と契約締結に至りました。

統合リスク管理制度の活用におきましては、主要なリスクである信用リスク・市場リスク・オペレーショナルリスクの計量化を行い、リスク量の推移や変化にあわせた適切な経営管理のため、継続的なモニタリングを実施いたしました。

こうした取り組みの結果、営業収益は14,311百万円（前年同期比14.0%増）、営業利益は10,352百万円（前年同期比4.4%増）、経常利益は10,873百万円（前年同期比5.5%増）、四半期純利益は7,049百万円（前年同期比3.1%増）となりました。

なお、当社は信用保証事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①財政の状況

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて3.3%増加し、243,278百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べて0.2%増加し、176,678百万円となりました。これは有価証券が減少したものの、現金及び預金が増加したことなどによります。

固定資産は、前事業年度末に比べて12.6%増加し、66,600百万円となりました。これは投資有価証券、長期預金が増加したことなどによります。

負債合計は、前事業年度末に比べて2.6%増加し、165,657百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べて5.1%減少し、25,693百万円となりました。これは未払法人税等が減少したことなどによります。

固定負債は、前事業年度末に比べて4.2%増加し、139,963百万円となりました。これは長期前受収益が増加したことなどによります。

純資産合計は、前事業年度末に比べて4.7%増加し、77,621百万円となりました。これは利益剰余金が増加したことなどによります。

#### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、営業活動により12,026百万円、投資活動により3,664百万円それぞれ増加し、財務活動により3,785百万円減少した結果、前事業年度末より11,904百万円増加し、52,244百万円となりました。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、増加した資金は12,026百万円となりました。主な増加要因は税引前四半期純利益10,431百万円、長期前受収益の増加額5,611百万円等であります。一方、主な減少要因は法人税等の支払額4,282百万円等ではありません。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、増加した資金は3,664百万円となりました。主な増加要因は定期預金の払戻による収入78,550百万円、有価証券の売却及び償還による収入8,700百万円等であります。一方、主な減少要因は定期預金の預入による支出72,350百万円、投資有価証券の取得による支出6,551百万円、有価証券の取得による支出5,000百万円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、減少した資金は3,785百万円となりました。主な減少要因は配当金の支払額3,785百万円等であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の業績予想につきましては、平成28年5月9日に公表いたしました内容から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第2四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	149,289	151,994
求償債権	11,989	12,269
有価証券	7,077	4,873
金銭の信託	10,291	10,134
未収入金	352	266
前払費用	45	51
繰延税金資産	3,870	3,496
その他	262	250
貸倒引当金	△6,802	△6,658
流動資産合計	176,377	176,678
固定資産		
有形固定資産		
建物	194	194
減価償却累計額	△121	△126
建物(純額)	72	68
車両運搬具	55	56
減価償却累計額	△26	△26
車両運搬具(純額)	28	29
工具、器具及び備品	350	357
減価償却累計額	△249	△252
工具、器具及び備品(純額)	100	104
土地	4	4
有形固定資産合計	206	206
無形固定資産		
ソフトウェア	405	348
ソフトウェア仮勘定	—	24
その他	3	3
無形固定資産合計	409	377
投資その他の資産		
投資有価証券	50,374	56,041
関係会社株式	9	9
長期預金	6,000	8,000
長期前払費用	72	68
前払年金費用	5	14
繰延税金資産	1,451	1,269
その他	614	613
投資その他の資産合計	58,527	66,017
固定資産合計	59,143	66,600
資産合計	235,520	243,278

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成28年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
前受収益	13,476	14,057
預り金	33	23
未払金	853	799
未払法人税等	4,357	3,005
賞与引当金	209	228
債務保証損失引当金	8,006	7,564
株主優待引当金	126	—
その他	8	14
流動負債合計	27,071	25,693
固定負債		
長期前受収益	134,302	139,914
株式給付引当金	33	48
固定負債合計	134,336	139,963
負債合計	161,407	165,657
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,684	10,684
資本剰余金	618	618
利益剰余金	63,242	66,504
自己株式	△267	△267
株主資本合計	74,278	77,540
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△221	△10
評価・換算差額等合計	△221	△10
新株予約権	56	91
純資産合計	74,112	77,621
負債純資産合計	235,520	243,278

(2) 四半期損益計算書  
第2四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
<b>営業収益</b>		
収入保証料	12,515	14,253
その他	42	57
<b>営業収益合計</b>	<b>12,558</b>	<b>14,311</b>
<b>営業費用</b>		
債務保証損失引当金繰入額	455	1,353
貸倒引当金繰入額	△297	△222
給料手当及び賞与	635	653
賞与引当金繰入額	196	228
減価償却費	93	99
その他	1,558	1,847
<b>営業費用合計</b>	<b>2,641</b>	<b>3,959</b>
<b>営業利益</b>	<b>9,916</b>	<b>10,352</b>
<b>営業外収益</b>		
受取利息	391	364
受取配当金	85	103
金銭の信託運用益	—	39
その他	38	24
<b>営業外収益合計</b>	<b>514</b>	<b>530</b>
<b>営業外費用</b>		
金銭の信託運用損	114	—
支払手数料	8	8
その他	4	0
<b>営業外費用合計</b>	<b>127</b>	<b>9</b>
<b>経常利益</b>	<b>10,304</b>	<b>10,873</b>
<b>特別損失</b>		
投資有価証券評価損	—	441
特別損失合計	—	441
<b>税引前四半期純利益</b>	<b>10,304</b>	<b>10,431</b>
法人税、住民税及び事業税	2,523	2,920
法人税等調整額	941	461
<b>法人税等合計</b>	<b>3,465</b>	<b>3,381</b>
<b>四半期純利益</b>	<b>6,839</b>	<b>7,049</b>



(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	10,304	10,431
減価償却費	93	99
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△553	△143
賞与引当金の増減額(△は減少)	16	19
債務保証損失引当金の増減額(△は減少)	△1,660	△442
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△69	△126
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△29	—
前払年金費用の増減額(△は増加)	—	△9
株式給付引当金の増減額(△は減少)	15	15
受取利息及び受取配当金	△476	△467
金銭の信託の運用損益(△は益)	114	△39
投資有価証券評価損益(△は益)	—	441
求償債権の増減額(△は増加)	47	△279
前受収益の増減額(△は減少)	489	580
未払金の増減額(△は減少)	△1,742	△27
長期前受収益の増減額(△は減少)	4,565	5,611
その他の資産・負債の増減額	172	122
小計	11,288	15,786
利息及び配当金の受取額	502	522
法人税等の支払額	△4,207	△4,282
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,583	12,026
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△58,650	△72,350
定期預金の払戻による収入	54,355	78,550
有価証券の取得による支出	△5,000	△5,000
有価証券の売却及び償還による収入	4,000	8,700
金銭の信託の解約及び配当による収入	93	185
有形固定資産の取得による支出	△45	△37
有形固定資産の売却による収入	2	1
無形固定資産の取得による支出	△63	△59
投資有価証券の取得による支出	△4,864	△6,551
投資有価証券の売却及び償還による収入	29	226
投資不動産の売却による収入	20	—
投資不動産の賃貸による支出	△0	—
投資不動産の賃貸による収入	0	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,122	3,664
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	0	—
自己株式の取得による支出	—	△0
配当金の支払額	△3,304	△3,785
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,304	△3,785
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△5,843	11,904
現金及び現金同等物の期首残高	15,238	40,339
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,394	52,244

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。